

## 研究開発課題事後評価結果

事業名（年度）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 （平成28年度～令和2年度）
研究開発課題名	糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
分担研究開発課題名	糖鎖の超高感度検出を目的とした新規糖アナログの開発
代表機関名	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学
研究開発代表者名	木塚 康彦

### 【評価結果】

優れている／計画した成果をやや上回る成果が得られた

### 【評価コメント】

新しい糖アナログの創製と活用を行い、糖鎖生物学研究における有用なリソースを確立した。糖タンパク質やグリコサミノグリカンの糖鎖修飾を高い特異性で制御または阻害する物質の発見に成功しており、適切なターゲットが同定できれば創薬のリード化合物になりうることを期待される。また、いくつかのアナログが糖鎖生合成過程の強い阻害剤として働くことを見出しており、当初の想定を上回る成果が出ている。

一方で、当初計画していたシアル酸アナログとGalNAcアナログの開発から、より新規性が高いと考えられるグルクロン酸アナログとキシロースアナログの開発に方針を変更したことにより研究開発に時間を要した。また、当初掲げた「糖鎖の超高感度検出」については、顕著な成果に至っていない。診断や治療法に直接結びつく部分についての成果は限定的であり、今後に期待する。より積極的でタイムリーな成果発信が望まれる。

以上